

27年7月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 7月1日～ 27年7月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/7月	8月	9月
仕入 動向	国産材製材品	18.8	25.0	12.5
	外材製材品	6.3	12.5	6.3
	構造用集成材	35.7	28.6	0.0
消費 動向	国産材製材品	18.8	25.0	25.0
	外材製材品	25.0	25.0	12.5
	構造用集成材	35.7	14.3	33.3
在庫 動向	国産材製材品	18.8	△ 6.3	12.5
	外材製材品	0.0	△ 12.5	△ 6.3
	構造用集成材	14.3	14.3	△ 7.1

・プレカット加工用部材の仕入は国産材及び外材とも3ヵ月連続して増加。構造用は7月及び8月の増加が、9月は横ばい。

・プレカット加工用部材の消費は国産材、外材及び構造用ともに、3ヵ月連続して増加。

・プレカット加工用部材の在庫は国産材は7月の増加が、8月は減少し、9月は増加。外材は7月の横ばいが、8月及び9月は減少。構造用は7月及び8月の増加が、9月は横ばい。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	27/7月	8月	9月
受注	25.0	18.8	43.8
加工	31.3	12.5	43.8
受注残	6.3	0.0	25.0

・プレカット工場の受注及び加工は3ヵ月連続して増加。受注残は7月の増加が、8月横ばい、9月は増加。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入は高値安定で推移。消費は暫くは高水準で推移。在庫は増加傾向にある。
- ・国産材は弱含み、外材は一部に品不足感が出て来た。特に、WW間柱。集成材は底値入りか下げ止まっている。7月消費は多いが、8月はお盆後が少なくなり、9月はまた多めとなる。在庫は7月～8月と増え続けが、9月は減少（北欧メーカーの夏季休暇により、9月入港が大幅に減少のため）。
- ・国産材の大型物件があるため仕入、消費、在庫ともヒノキ、スギが増加。

(受注動向)

- ・9月までは高水準で推移。以降は不透明。
- ・5月以降受注は良好で、7月がピーク、8月は一服して、9月にまた盛り上がる。
- ・国産材の大型物件があるためヒノキ、スギが増加。